

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2796500011		
法人名	株式会社 カームネスライフ		
事業所名	グループホーム ここから堺たんぼぼ村 (2ユニット)		
所在地	大阪府堺市北区中村町198番の1		
自己評価作成日	平成27年4月25日	評価結果市町村受理日	平成27年7月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年6月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが、グループホームここから堺たんぼぼ村で日常生活を安心して健康に注意しながら、生き甲斐を持って過ごして頂けるように配慮している。入浴はNsと健康確認して清潔を維持していただけるように週3回実施している。季節感を持って過ごしていただけるように天気や晴れの日は、外気浴に出たり、近くの公園に出かけたりしている。また、地域の行事(お祭り)等は、施設の駐車場に寄っていたり、子供達にお菓子等を渡している。隣接の小学校の6年生が定期的に利用者と交流に訪問する機会を大切に、また、ボランティアを活用して、大泉公園の散策を楽しんだり、絵手紙、折り紙、フラダンスなど楽しんでいただける機会を計画し実施している。書道は毎週利用者の家族が協力してくださり行っている。家族には、たんぼぼ通信で知らせたり、面会時には、介護者が近況報告している。緊急搬送等については、家族と事前に話し合ってる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念:家族的な雰囲気・穏やかな生活・いつも笑顔・・・朝礼の時に復唱して業務に入っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の「だんじり」は、施設に寄ってもらって地域住民と交流している。また、近くの小学校の6年生が定期的に交流しに訪問してくれている。又、運動会を見学させてもらっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の個々の介護相談は、その都度お聞きしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに運営推進会議で、細かい取り組みについて、報告し改善の検討をその都度している。家族等の意見も反映するようにしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護課(生保の利用者)には、援護課に必要な経過報告等を行い、事故等については必要時、市に報告している。相談が必要な時は、窓口に行っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、立地上必要で、家族からも必要性については求められている。身体拘束については、家族から必要性の依頼があり、ベッド柵の設置をする方は今もいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待等困難ケースがある時は、その都度、皆で話合って介護にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今、権利擁護の必要な方は居られない。以前には権利擁護の必要な方が居られたので、学んだことがある。今後の為に勉強はしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議や家族会議で意見を聞いて、全体会議や地域会議で報告等をして反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開催して報告・意見等をまとめている。日頃も必要に応じて意見交換をしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が対応している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が対応している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時・又退院時は利用者の不安等が多々あるので、その都度ゆっくり話を聞き(希望していることなど)また見守り等して、必要なことを確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聴き取り等は、1回のみでは出来ないもので、面会等に来られるたびに聞き取りして、いろいろまとめるようにしている。家族関係・在宅での様子・施設介護の希望など必要に応じて聴き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人も家族も、施設での生活に、不安もあり、環境の変化も大きいので、自分でできること、介護を要することなど必要に応じて検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人からもいろいろ聞き取りして、希望する事・自分でできること・お手伝いしてよいこと、など聞いて介助している。介助の必要性もその都度検討している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に職員が、利用者の様子を話している。また、家族からも話を聞き取っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族によっては、外出等に連れ出して楽しまれている。また、家族から、面会希望者の連絡があれば、面会していただいています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に過ごしてもらっている、外気浴・レク・食事等で、利用者同士のコミュニケーションが図れる様に配慮している。また、利用者同士に問題が生じないように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、家族からの相談等があれば相談に乗っている。家族から退去後の経過相談等があれば把握できるが、それ以上の支援は図っていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からもいろいろ聞き取りして、希望する事・自分でできることを確認して、家族からも意向を聞き取りしている。介護職も日頃の様子を検討して、サービス計画に反映できるように検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート等に家族関係・生活歴・なじみの暮らし方、これまでの生活歴など聞き取りして、まとめ全職員が確認できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートにて、日々の変化・ADLの低下・医療的確認等をわかるようにしている。また、朝・夕に申し送って介護の把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画作成時には、担当者会議を開催している。モニタリングは必要時にその都度しているが、落ちついて過ごされている時は、3ヶ月毎に見直している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録を記載して、細かな生活歴・サービス計画の介助等をまとめている。感情の起伏・就寝時の状態なども引継ぎして、介護の継続を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化が見られたとき、本人・家族と相談して、施設で対応できること、出来ないことは、説明して対応している。状況によっては施設でできない時は断ることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校の行事の見学や、ボランティアの協力で、公園散歩・書道・絵手紙・音楽・歌等を楽しんだり、誕生日のお祝いに本人と外食・おやつを食べに行ったりしている。利用者の状況を把握して協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回主治医の往診があり、体調の変化に応じて看護師に報告している。泌尿科・訪問歯科も利用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の排泄状況から食事・水分摂取量等を記録して、必要時看護師に報告している。便秘等の処置も対処してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・看護師・ケアマネが入院中の状況を適宜職員に報告している。退院後の介助の指導も相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	歩行困難や排泄介助が必要になった方には、その都度介助の方法を相談したり、夜間排泄確認がベッド上で必要になった時には電動ベッドを利用し、排泄確認・体位変更をしている。主治医の紹介で大きい病院に受診・入院が可能になるよう連携が取れている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、意識確認・バイタル測定等を行い、職員・看護師等の判断で家族に連絡して、緊急搬送している。急変時マニュアルを作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。消防署員立会いの元、実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全個室で、家族面会時等、家族と居室でゆっくり過している。また、居室で引きこもりにならないよう気配りして個人の生活を見守っている。排泄確認、トイレ利用時も他の人の目に触れないような環境になっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外気浴に出る機会を増やしたり、行事の参加・食べ物の嗜好・排泄のサイン等把握していき、職員間で気づくように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけして必ず確認の上、本人の意思に任せて、レク等に参加してもらっている。無理強いほしないように対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に訪問理容を利用している。自分自身で、希望の髪の長さや、髪形を決めてもらっている。居室にてブラシ・鏡・化粧品道具を利用されている。外出時には、口紅を塗ってはと声かけしている(女性の方)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理はいろいろ研究・工夫して利用者の口に合うように考えてくれている。利用者からも食事は美味しいと言われている。職員も利用者と共にテーブルにつき食事している。利用者が出来ることは(テーブルを拭く、洗物を拭く)一緒にしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量は記録し、利用者の状態を把握して、食べやすい大きさに刻んだり、食べやすい硬さの状態にしている。月1回体重測定を記録して、対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを促し、自己にて出来ない方には職員が介助している。訪問歯科を利用している利用者もおられる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを把握して、トイレ誘導を行う。本人の行きたい時を見逃さないようにして、トイレで排泄できるように心がけている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続く時は薬の対応をするが、水分・牛乳等を多めに飲んだり、芋類・バナナ等の繊維の多い物を提供したり、適度な運動をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人が入浴を嫌がる日に無理強いをしないようにしている。時間をずらして声かけをサイドしている。職員と1対1で入浴し浴槽室の室温・湯の温度など個人の希望にあわせている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	椅子で傾眠しはじめたら、ベッドで短時間臥床して、昼夜逆転にならないように配慮している。夜間、ゆっくり就寝できるようにエアコンで室温調整している。パジャマも好きな物をきるように聞いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬袋に記名をして服薬時は利用者の名前を復唱している、看護師が薬を管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの飲み物を聞いて提供している。。カラオケ・散歩・ドライブ等で日々の生活に楽しみ等を見つけメリハリのある生活を過ごせるように提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園に散歩に出かけたり、駐車場で外気浴をしながら植木を鑑賞し、また、車で公園に出かけたりドライブを楽しんだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で立替払いが出来るが、もっていないと心配して落ち着かれない利用者には、家族と相談して最小限の小銭を利用者が持っている方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	預かりの携帯電話を事務所で充電し、本人が希望される時にかけている、家族からの電話も取り次ぎ居室でゆっくり話される。事務所に電話を借りに来る利用者にも電話を利用してもらっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節ごとの壁飾りを利用者と共に作製し飾っている。遮音・遮光には、常に配慮し、ロールカーテン等で重苦しくならないようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大型テレビの前にゆったりとしたソファを設置して、利用者同士席は譲りあったりして仲良く過ごされている。食卓テーブル席でもいろいろなレクを職員と一緒に楽しむ		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で過ごしていたなじみの物(椅子やテーブル・ダンス等)や仏壇を置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアに大きくトイレ表示・ドアの開け方も示している。浴室ドアには銭湯を思わせる大きなのれんをかけている。居室には(必要な方に)表札的な名前をわかりやすく表示している		